

新しい生活スタイルに

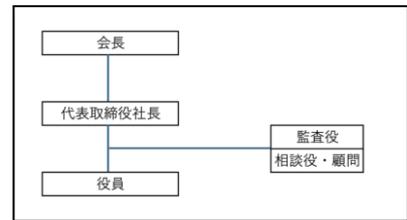
1. 相談役に

弊社は7月1日に創業30周年の節目を無事に迎えることができ、予定通りに事業承継しました。社長を退任後の役割について考えたところ、会長・監査役・相談役・顧問と候補があがりましたが、

- ・会長:各業界や経団連、商工会議所などに出向き、間接的に経営に関わることが多い
- ・顧問:専門性を発揮する
- ・監査役:取締役の一員として責任が出る

という消去法で相談役に決めました。相談役は豊富な経験や知見を活かして企業に貢献するという役割なので最適だと満足しています。

しかし、相談役は名前は立派ですが、実質的な面に課題があります。弊社は小さな会社なので細々として仕事を誰かがやらねばなりません。現役の方々には無理な面があり、自分でやってきたという背景があります。以前、お客様の総務部長が「総務というのは誰かがやらねばならない仕事をするのだ」とおっしゃったのを覚えています。細々としたことは難しいことではないのですが、例えば、廊下に落ちているゴミですが、誰かが拾わないと片付かないのです。また、業務でもたまにしか発生しないものは私自身もとりかかるとに時間がかかることが多いです。例えば、給与の算定基礎届や労働保険の申請は社労士に依頼する程でもないのに、長年、自分でやって来ましたが、こういうのも「やり方」を教えながら、事務処理を続けたいと思います。ホンマ、総務という感じです。



2. 不踰矩

今まで「自分の会社」と思い、いろいろと気を張っていましたが、相談役になると少しは気楽になりました。例えば、何事も最終責任は自分にあると思っていましたが、これからは「決めるのは社長」と自立を促すようになりました。コンプライアンス問題が世間で話題になっています。孔子の「七十にして矩を踰えず」(不踰矩)の言葉が有名ですが、私もようやく実感するようになりました。コトバンクによると「どんなに立派な人でも、自分の行動を完全にコントロールできるようになるのは、七〇歳くらいになってからだ」とありますが、ようやく、76才で到達かなと思っています。

「矩(リ)」は法律、「踰(コ)」は犯すと解釈すれば、現役世代のように「稼ぐ」というプレッシャーからは解放されています。お陰様で自宅も事務所もマンションの一室ですがローンも完済しており管理費だけで毎月は過ごせます。三男は私が相続した母の家をリフォームして独立しており、仕事は一緒にしているので昼と晩の食事を自炊で済ませているので食費も比較的安くついています。衣食住と言いますが安くつき、しかも、自動車も昨年12月に立体駐車場の解体で廃車したので維持費がなくなり、移動は自転車を使うようになりました。プチ贅沢は毎朝の喫茶店でのモーニングと土曜日に食材買い出しのついでに外食をする程度です。

私は、性格的にサイクリックな生活を好む方で、しかも、妻に先立たれているので今の生活スタイルから大きく外れるような行動に出る可能性は小さいと思っています。たぶん、朝にFacebookに投稿し、喫茶店経由で徒歩10分程度の距離の事務所に出て、掃除などをしながら「独り言川柳」を詠み、このような記事を書いてメルマガ発信の準備を営々と続けたいと思っています。仮に、「不踰矩」を破ることがあるとすれば、多分、記事で炎上することかなと思ひ、可能な限り「お客様」に関する情報を直接的に書かないように心掛けています。

そして、「やめる時は倒産」という覚悟をもってメルマガや「独り言川柳」などを書いていますので、気力・体力の続く限りはこのスタイルを続けようと思っています。晩は野球が好きなので見っていますが、オフシーズンもあるのでユーチューブでカラオケを適度に楽しんで最新の演歌にチャレンジしています。

3. 「言うは易く行うは難し」

しかしながら、肝腎の体は年齢相応になっており、'22年10月に大動脈瘤の手術を受け人工血管になっています。今年6月に逆流性食道炎になり、消化力の衰えを実感していますし、この時の血液検査で「腎性貧血」が判明して専門医からダブロック錠という腎臓でつくるエリスロポエチンというホルモンを増加させる薬を処方されています。自分では気づかず、思わず医師に「片道10kmを自転車で往復できる」と言った程でしたが、素直に服用しています。

また、大動脈瘤の手術は健康診断のレントゲンから判明したのですが、約8年経過観察して、その間に4人の専門医が変わったのですが、4人目の医師が強く迫ってくれて73才の時に受けたのです。「腎性貧血」はそれまでかかりつけだった個人病院の担当医が退職して、年老いた院長が月に2回、それも木金土の午前だけの診察をしていたので、何かあった時に変わろうと思っていたのですが、嘔吐に血が混じったので胃腸科の医師を発見したのです。

故船井先生は「必要・必然・最善」と教えて下さりましたが、人工血管もダブロック錠も「必要」であり、最新の医療で「必然」であり、タイミング的にはまだ元気なうちという「最善」であったと思っています。「百歳現役」とスローガンに掲げてアンチエイジングに努めて来ましたが、身体的に「人工血管」や「ダブロック錠」が必要・必然の時に来ていたのです。お陰様で「百歳現役」にチャレンジする意欲が湧いています。「言うは易く行うは難し」と言いますが、「行なう」には「身体」が健康でなければなりません。その健康面で2つの課題を解決しています。

4. 新しい生活スタイル

「MMQC【もっと儲かる業務改善】通信」というメルマガで「[栩野正喜の勁草塾](#)」を6月より連載を始めました。「勁草」という言葉との出会いはサラリーマン時代の日本IBMの阪上浩氏が講師されていたセミナーのタイトルでした。「疾風勁草」と4字熟語ですが、「疾風」は激しい風、「勁草」は丈夫な草という事です。人の評価は厳しい状況に陥った時に分かるという意味で「疾風に勁草を知る」と表現することが多いとの事です。

一般的に平時はおとなしい人が望ましいですが、おとなしい方は「変化」に順応することが苦手という方が多いのです。この経営課題にチャレンジする為に、私は「**変わらないなら変われるようにしましょう**」という信念で経営コンサルタントを志したのですが、サラリーマン時代の「トヨタ方式」では一般企業では難しいので流通業の船井総研で客員経営コンサルタントの資格を得て創業したのです。そして、お陰様で30年間、よいお客様に恵まれて、目出度く、7月に三男に事業承継を行なうことができました。この気楽な環境を活かして、これからは、読者の方々に「[栩野正喜の勁草塾](#)」の連載を通じて、何らかのヒントになれば最幸という思いでいます。

この記事の冒頭で、相談役は豊富な経験や知見を活かして企業に貢献すると書きましたが、それなりの経験や知見をもっている心算なので、企業情報に抵触しないように配慮しながら今後の「我が道」を切り拓いて行きたいと思っています。幸いにも、経済的にも健康的にも恵まれている方と思っていますので、「不踰矩」も胸にしまって、可能な限り「世の中の役に立てれば幸い」と前向きに生きたいと思えます。

「**変わらないなら変われるようにしましょう**」はサラリーマン時代からコンピュータを活用するOJT活動などを通じて信念化したものです。一般的に多くの方は「変わる」ことに躊躇しがちですが、「変われる」ようにヒントや支援を提供して行きたいと思っています。ここ近年は、お客様の新役員のメンターとして、キャリアを活かした助言や指導で、成長や精神的なサポートを行なっています。意外にも「内心に秘めた前向きな面」を引き出すことが出来てお互いに喜んでいきます。殆どの方は、ホンマに「変われる」と確信しています。「[池の魚、川の魚](#)」を「[栩野正喜の勁草塾](#)」でご紹介していますが、人生は2度ありません、思い切って「川の魚」になってみませんか。ホンの少しの勇気から始まります。そのお手伝いをライフワークにしたいです。